

# クビアカツヤカミキリの撲滅に向けた活動

## ねらい

クビアカツヤカミキリは2015年7月に板野郡板野町のモモ園で県内では初めて確認された外来種である。被害は幼虫による樹幹の食害で、摂食により排出されたフラスは樹体外で大量に堆積されるので、外観上すぐに目につく。樹皮下の通導組織等が食害されると養水分の通導が止まり樹勢が衰退し枯死する場合があるので、早急な撲滅が求められている。

そこで、本虫による被害の発生状況を的確に把握するとともに、研究機関で開発された防除技術をモモ生産者に紹介、指導することで早期の撲滅を目指す。

## 活動地域・対象

地域：板野郡板野町，同郡上板町，鳴門市  
 対象：モモ生産者



クビアカツヤカミキリ成虫      フラスが排出されたモモ被害樹

## 普及活動の目標

- クビアカツヤカミキリによる被害の発生状況等を把握し、防除指導の基礎資料とする。
- 防除指導を徹底することで、被害軽減につなげモモ産地内における早期の撲滅を目指す。

## 目標に向けた活動概要

1 モモ園における被害の発生状況調査および防除実態の聞き取り調査：  
 板野郡板野町，同郡上板町と鳴門市におけるモモ園を対象に8～9月に本虫のモモ樹に対する被害をフラスの排出によって判断し、被害樹と被害発生園を計数する。また、一部の生産園では生産者に防除の実態を聞き取り調査し被害発生との関係を分析する。



対策会議の様子 (R2.6.17)

2 防除対策会議の開催，関係機関への情報提供：  
 1市2町，JA，県立科学館および公園の指定管理者と農業支援センター等県関係機関の担当者参集のもと，本虫の防除対策会議を開催する。また，鳴門藍住農業指導班会において上記で調査で把握した被害状況を報告する。

3 技術の個別指導：  
 板野町内の各生産者と上板町の被害の著しい生産者を対象に戸別訪問し，上記指導用防除マニュアルを用いて，防除方法等を指導する。

### モモのクビアカツヤカミキリ防除

**1. 人為的な殺処分**

- 成虫は、6月下旬から7月末に羽化、発生します。収穫作業等の影にみづけたら、たぐちに捕殺、もしくは撲殺して下さい。
- 幼虫は、5月上旬から6月上旬と5月下旬から6月下旬の2回、フラスという糞と木くずが混じったものを排出します。その排出孔を見つけたら、針金等を差し込み、幼虫を刺殺して下さい。

**2. 薬剤による防除**

- 幼虫は、フラス排出孔の奥に潜んでいます。干ばい、等でフラスを?きたし、以下の薬剤を孔内で噴射して下さい。

**ロピノゾド (前日まで 5回以内)**

- 成虫は、発生時期に以下の薬剤を主に、主幹に散布して下さい。散布時に成虫がいなくても、散布1週間経過後までは効果がありません。

スプラサイドM (200倍 収穫前日まで 2回以内)  
 モスリン薬水液剤 (2,000倍 収穫前日まで 2回以内)

注) スプラサイドMは、果実収穫後に使用して下さい。

**3. 被害樹、枯死樹の伐倒、伐根**

- 本虫による被害が著しく、結果しなかったり、枯死した場合には、樹を速やかに伐倒して下さい。伐倒後は放置せず、燃焼、破砕等により適切に処分して下さい。
- 幼虫は根に潜っている場合がありますので、できれば伐根もして下さい。できる場合は、厚手のビニールシート、肥料袋等で表面を覆って下さい。

問い合わせ先：農林水産総合政策支援センター 高屋技術支援課  
 電話：089-674-1922

指導用防除マニュアル

普及活動の成果

1 モモ園における被害の発生状況

今年度の発生状況を過去の状況と合わせて表1に示した。また、被害園の分布を図1に示した。産地全体として被害樹は昨年度と比較して152樹減少したが、被害発生園はわずか3園の減少と状況は変わらなかった。その要因として、被害樹減少は個々の生産者による防除対策の効果によるものと考えられるが、上板町では図1に示したように被害発生園の分布が年々東から西へ拡散していることから、その増加が影響しているものと考えられた。

表1 モモ産地における被害の発生状況

調査年	調査対象	上板町	板野町				鳴門市大麻	計	発生率(%)
			羅漢	犬伏	吹田	川端			
2015	園	0 / 0	0 / 5	2 / 6	8 / 8	7 / 9	0 / 2	17 / 30	56.7
	樹	0 / 0	0 / 69	2 / 38	94 / 151	34 / 428	0 / 178	130 / 884	15.0
2016	園	0 / 8	0 / 5	2 / 5	10 / 10	16 / 21	0 / 3	28 / 52	53.8
	樹	0 / 340	0 / 67	2 / 28	116 / 211	131 / 545	0 / 211	249 / 1402	17.8
2017	園	29 / 99	2 / 6	8 / 8	11 / 12	25 / 36	0 / 9	75 / 170	44.1
	樹	127 / 2835	6 / 96	22 / 41	100 / 222	171 / 1341	0 / 435	426 / 4970	8.6
2018	園	20 / 126	5 / 7	7 / 9	10 / 11	48 / 53	2 / 12	92 / 218	42.2
	樹	48 / 2755	22 / 88	11 / 39	40 / 118	379 / 1146	4 / 437	513 / 4582	11.2
2019	園	55 / 139	4 / 7	5 / 6	11 / 11	47 / 50	4 / 23	126 / 236	53.4
	樹	237 / 3398	21 / 103	8 / 29	40 / 130	308 / 1320	7 / 680	621 / 5840	11.0
2020	園	66 / 142	3 / 6	4 / 4	9 / 11	38 / 47	3 / 24	123 / 234	52.6
	樹	209 / 3481	13 / 105	6 / 28	38 / 128	200 / 1223	3 / 613	469 / 5578	8.4

注) 数値は、被害発生園・樹 / 全調査対象園・樹を示す。

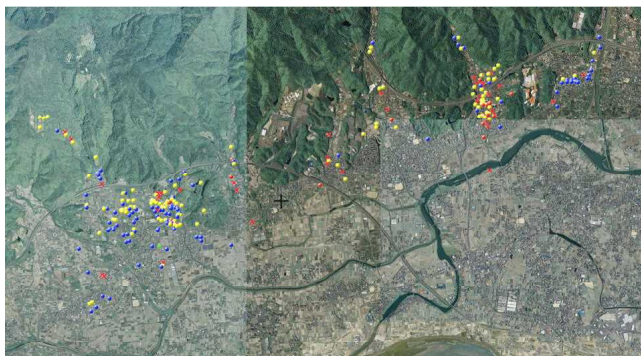


図1 モモ産地における被害の発生状況  
注) ●:被害なし、●:被害樹あり、●:枯死樹あり、×:廃園、▲:未調査

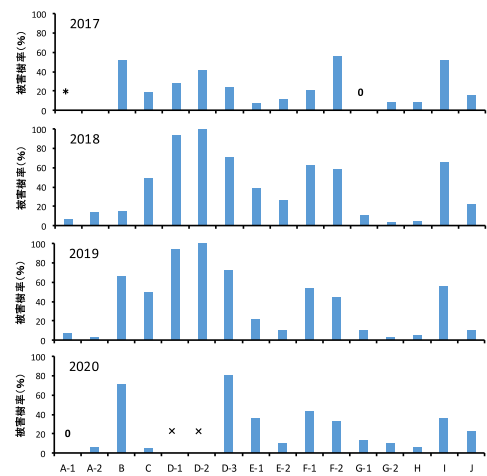


図2 板野町川端における生産園ごとの被害状況  
注) 同英記号は同一の生産者を示す。数字は生産園の別を示す。

2 防除対策の実践による被害の発生状況

板野町川端における4年間の生産園ごとの被害状況を図2に示した。D生産者の3園では年々被害が増加し、2つの園は廃園となった。一方、A生産者とG生産者の各2園は低くとどまった。その要因として、聞き取り調査により防除対策の実践の有無によるものと考えられた。

用語説明

クビアカツヤカミキリ：中国が原産の特定外来生物。モモのほかにスモモ、ウメ、サクランにも被害を及ぼす。2年1化性、成虫は本県では6月下旬から8月上旬に発生。幼虫は樹内を摂食することで大量のフラス（ふんと木くずが混ざったもの）を排出する。

今後の発展方向

引き続き、産地内における発生状況を調査し、その結果を関係者や生産者間で共有することで、防除対策を徹底する。それを数年続けることによって撲滅につなげる。

関係者からの声

○被害は以前より治まったような感じがする。引き続き防除対策に努めたい（板野町内生産者）。

高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922